

「知る」ことが第一歩

長岡市立東中学校

三年 吉川 響士郎

いまやほとんどの電球が白熱電球からLED電球に移り変わっている。これによって、私たちの暮らしがさらに便利になった。しかし、ほとんどの人が実は税金のおかげで身の回りの暮らしが便利になっているということを知らないだろう。私は以前私たちの普段使っている白いLED電球のもとになった「青色LED」を発明した天野浩さんの講演を聞きに行ったことがある。そこで私はあることを知った。それは、天野さんがいた名古屋大学で研究をしていたころ、年間二百万円もの莫大な研究費がかかっていたことだった。しかも天野さんの研究には特別な機械などのある特別な環境も必要だった。それを天野さん自身で負担するのはあまりにも無理があるため、大学から研究費をもらっていたそうだ。しかし、私はふと思った。大学からのお金はもとをたどるとどこから発生しているのかということに疑問を持った。しかし、その疑問の答えは私がある高校のオープンスクールに行ったときに解消された。高校の説明をパワーポイントで見ながら聞いていたときに、各有名大学の研究費ランキングを使った説明で国立の大学の研究費は「税」から出されていることを知った。そして税金は学術研究にも使われ、貢献してきているこ

とを知った。

税金に関して、こんな言葉がある。「日本人は政府に税金を納めたら、政府が何に使おうと無関心である。」この言葉はパナソニックの創業者の松下幸之助の言葉である。私はこの言葉に本当に共感した。なぜなら、私自身も税金というものが福祉関係ぐらいいにしか使われていないものだと勘違いをしていたからである。最近、消費税が五パーセントから三パーセント上がり八パーセントになった。日本人はこのことについてあまり良くはとらえていなかった。しかし、その原因は消費税が上がるということよりも、日本人が回収された税金がどのようなにして私たちの暮らしの為に使われているのかということを知らないということにあると思う。だから、私はまずは税金がどのような使われ方をして、直接的に、あるいは間接的にどのような私たちの暮らしに役立っているのかを国民が知ろうとしなければいけないと思う。それを知ろうとして、意識を持ち、選挙などで自分に合った政治や、税金の使い道を公約として掲げている人に投票して政治をより良いものにするというサイクルが本来の政治であり、税金のあり方だと私は思う。

このように、意外と私たちは税金について知らないことが多い。良い税金の使われ方こそが良い国にしていくうえで大事なことだと私は思う。そのためには、日常から私たちが興味関心を持ちニュースなどを見るといような小さなことで良い。そのような小さなことの積み重ねがやがて日本だけでなく世界をよくすることにつながるのかもしれない。